『野鳥シート』解説

水辺で楽しむバードウォッチング―秋・冬編―

常務理事　平　田　寛　重

子どもを含めて初心者にバードウォッチングを指導する場合は、近くで大きく見られる野鳥を対象にすることが大事です。双眼鏡や望遠鏡を使わずに、肉眼でもある程度までの観察ができることも必要な条件の一つとなります。その意味で、カモやサギの仲間は、うってつけの対象です。

そこで、冬の水辺で比較的観察のしやすい29種類の野鳥を選び出し、水に強く下敷きとしても使える図鑑シートにしました。

さあ、バインダー（紙ばさみ）にこのシートと観察カードとをはさんで、鳥を見にいきましょう。そして、身近な野鳥に親しむ機会を持ちましょう。

それでは、以下、掲載されている29種類の野鳥について解説をします。この29種は国内で比較的よく観察される種という観点から厳選しました。カワウなど分布が局地的な種もありますが、最近分布が拡大しつつあるので採用しました。

観察のポイントにも触れておきましたので、ウォッチングに役立ててください。また、観察は単に種の識別に終始すべきではありません。行動や生活の様子をよく観察することで、その種についての理解がより深まるものです。図鑑や専門書に書かれていないことでも、観察から発見されることがたくさんありますから、じっくりと取り組んでみて下さい。

オシドリ

全長41cm　小型のカモ。オスは、全体的に橙色で、橙色の冠羽がある。尾の近くにあるイチョウの葉の形をした橙色の風切羽（かざきりばね）が特徴的。嘴は橙色。メスは、全体的に灰色がかって見え、嘴も灰色。目の後ろから後方へ流れる白く細い線がポイント。北日本以北で繁殖し、本州以南で越冬する。木の洞でひなを育てる。巣立ちの時、ヒナは地上数メートルの木の上から飛び降りて、水辺に歩いていく。平地では、冬に多く見られ、池や渓流・湖などで水面が木で覆い被さったような環境に生息する。クェッあるいはクィーと高い声や、ゲェッとかギッと濁った声を出す。植物質を主として食べるが、なかでもドングリが好物である。また、水生小動物なども食べる。

仲のよい夫婦をオシドリ夫婦ということがあるが、実は、オシドリに限らず、カモの仲間は、毎年つがいを替える習性を持っている。他のカモ類と異なり、樹上に止まる性質があるので木の枝に止まる個体を探してみよう。

マガモ

全長59cm　大型のカモ。オスは、緑色（光線の具合によっては、紺色に見える時もある）の頭と黄色い嘴がポイント。メスは、カルガモに似ているが嘴の黒い部分が上部に見られ、周囲がオレンジ色になっている。北海道と本州・九州の一部で繁殖する。北海道では、道庁の池で繁殖した例もある。冬季は全国的に分布する。池や湖沼・河川などで観察することができる。グエーグェグェッと鳴く。主に植物の種子などの植物質を食べるが、水生小動物なども食べる。

アヒルはマガモを改良して作られた品種で、一回り大きい。カルガモとマガモのメスの違いがわかるようになればエキスパート。

オナガガモ

全長75cm　大型のカモ。オスは、チョコレート色の頭と長い尾がポイント。メスは、茶褐色の体で灰黒色の嘴と足がポイント。冬鳥として北海道の一部と本州以南に渡来する。池や湖沼・河川などに生息する。シィーシィーン、プルップルッと鳴く。主に植物質を食べ、イネ科・タデ科・カヤツリグサ科などの種子やエビモ・アマモなどの水生植物などの

芽や葉などを食べるが、水生昆虫なども食べる。採餌のため、水の中で逆立ちをして水底の餌を採って食べることがある。

オナガガモは、メスへのディスプレーとして、首を上下に動かすなどのいくつかの求愛行動を行うので、いろいろ観察してみよう。

カルガモ

全長60cm　茶褐色の大型のカモ。くちばしが黒く、先がオレンジ色になっているのがポイント。足もオレンジ色。オス・メス共に見分けがつかない。北海道の一部では夏鳥として分布し、北海道道南以南では留鳥として生息する。グェグェッと鳴く。主に種子や根などの植物質を食べるが、水生昆虫なども食べる。

東京の大手町にある三井物産ビル前の池のヒナが話題を呼んだが、身近な所でも繁殖している。カルガモの親子を探してみよう。

ハシビロガモ

全長51cm　名前の通り、オスもメスも幅広いへら状の嘴を持つ中型のカモ。オスの頭部は緑色。胸は白く、腹部は赤褐色。目は黄色い。メスは、体は全体的に茶褐色で、嘴は黄褐色。目は黒い。東北南部以南に冬鳥として渡来する。湖沼や河川に生息する。クェックェッと鳴く。植物の種子や水生植物の葉や茎などを主に食べるが、水生昆虫や貝などの動物質も食べる。くちばしが広いのは水の中のプランクトンをこしとって食べるためである。嘴をシャベルのように使って餌を採る様子を観察しよう。

コガモ

全長38cm　小型のカモ。オスは、赤茶色の頭で目の回りに緑色の模様が目立つ。また、下尾筒（かびとう）に黄色い三角模様が見られる。メスは茶褐色で黒い嘴を持つ。国内で見られる一般的なカモの仲間では最も小さい。本州の一部で繁殖するが、一般的には、北海道道央以西に冬鳥として渡来し、河川・湖沼・池などに訪れる。分布域はかなり広い。ピリッピリッと鳴く。植物質を主に食べるが、水生昆虫なども食べる。

繁殖期が近づいてくると、十数羽で１羽のメスの回りを取り囲み、頭と尾を同時に上向きに反らす動作をする。メスとオスのエクリプスの見分けができればあなたはもうプロ級。

オカヨシガモ

全長50cm　中型のカモ。オスは、全体的に黒灰色で、腰の部分が黒い。嘴は黒く、足は黄色。メスは、マガモのメスによく似ているが、嘴の下部だけが黄色い。関東地方や北海道でわずかな繁殖例があるが、ほとんどが冬鳥として本州以南に渡来する。池や河川・湖沼などで見られるが、地味な鳥なのでなかなか話題にされない種である。おしつぶしたような声で、アッアッあるいはゲッゲッと鳴く。植物質を主に食べるが、水生昆虫や小魚類も食べる。

メスはマガモのメスとよく似ているが、大きさが違う点と嘴の色の雰囲気が少し異なるのが識別ポイントになる。

ヒドリガモ

全長48cm　中型のカモ。オスは、胸から頭にかけて赤褐色で、額にクリーム色の模様がある。体は灰色。嘴はライトグレーで先端が黒い。メスは、茶褐色で、オスと同じように灰色の嘴の先端が黒い。足は、オス・メス共に灰色。北海道道南以南に冬鳥として渡来し、海岸・湖沼・河川などに生息する。口笛に似た声でピューウピューウと区切って鳴く。植物の種子や葉などを主に食べる。ヒドリは緋鳥と書き、頭から胸にかけて赤いことに由来する。

キンクロハジロ

全長44cm　小型のカモ。オスは、全体的に黒く、金属光沢が見られる。腹部は白い。メスは、全体的に黒褐色。オスもメスも灰色の嘴、金色の目で小冠羽が見られる。北海道の一部で繁殖するが、ほとんどは、北海道道南以南に冬鳥として渡来し、湖沼や河川に生息する。クックックッと鳴く。水生小動物や貝などの動物質を主に食べるが、植物の種子なども食べる。

ホシハジロ

全長48cm　中型のカモ。オスは、頭部が濃い赤褐色で目が赤い。胸は黒。体は灰色。メスは、胸から頭部にかけて灰褐色で、胴体は灰色。目は黒い。冬鳥として本州以南に渡ってくるが、北海道での繁殖例もある。主に、淡水の湖沼や河川に生息する。クルックルッという声で鳴く。潜水して水草を採って食べる。どの位の時間、水の中に潜っているか調べてみるのもよい。

スズガモ

全長46cm　中型のカモ。オスの頭部は、緑色の光沢が出る黒色。首や胸は黒い。体は灰色。目は黄色。メスは、全体的に黒褐色で、嘴の基部が白い。目は黄色。冬鳥として全国に渡来する。河口付近や海に大群でいることが多い。クックッと低い声で鳴く。潜水して貝や小魚などを食べる。

潜水するカモは重心が低く、潜らないカモに比べると尾羽付近まで水に沈む。潜水するカモには他にどんな種類があるか調べてみよう。

バン

全長32cm　体は、全体的に黒っぽく、背は緑褐色を帯びる。額板は赤く目立つ（冬羽は褪せて黄色っぽくなる）。また、下尾筒の白い三角斑が目立つ。目は赤い。オス・メスはほとんど同じで、外見では区別がつきにくい。全国的に繁殖するが、北日本では冬になると大部分が南下する。湖沼畔・水田・川辺などの湿地に生息する。クルルーッと一声ずつ鳴く。植物の葉や種子を食べる。また、水生小動物なども食べる。足指は長く、草の生えた水辺を歩くのに適している。

バンは、ヘルパーと言って、繁殖時に、最初に巣立ったヒナが下のヒナの子育ての面倒をみることがある。また、下尾筒に白い二つの斑があるが、これにはどんな意味があるのだろうか。観察によって確かめてみよう。

オオバン

全長39cm　体は、全体的に黒く、白い額板が目立つ。オス・メスはほとんど同じで、外見では区別がつきにくい。足は、緑青色で、バンとは異なり、指にヒレがついていて、水上の生活により適したつくりになっている。泳ぎがうまい。目は赤く、幼鳥は、目の後方に白い線が流れている。また、飛ぶと次列風切の先端に白線が出る。北海道・本州・九州の一部で繁殖する。東北以南で越冬する。湖沼やゆるやかな流れの河川などの草の繁茂した環境に生息する。キュイッあるいはクッと聞こえる声で鳴く。主に水生植物を採餌する。小動物も食べる。

水の中に勢いよく潜り、水草を採ってくわえてくることがある。また、採った餌をカモたちに横取りされることもあるので、採餌行動をよく観察してみよう。

カイツブリ

全長26cm　冬羽は全体的に濃淡の褐色。嘴も黄褐色で、目は黄色い。足には、指にそれぞれのヒレがあり、水中を潜るのに都合良くできている。オス・メスほとんど同じで見分けがつかない。全国的に繁殖するが、冬季は本州以南で見られる。湖沼や河川などの止水域でよく見られる。ケレレレレレと聞こえる大きな声で鳴く。水中に潜り、魚やザリガニなどの水生生物を捕えて食べる。飛ぶときに、水上を駆けながら飛び立つ。

どのくらいの時間潜ることができるのか、また、どのような餌を食べているのか、調べてみよう。

ウミネコ

全長46cm　成鳥の背は濃灰色。黄色い嘴で、先端部に赤と黒の部分がある。目と足は黄色。尾羽に黒帯がある。カモメ類は、成鳥になるまで数年を要し、幼鳥・若鳥などは茶褐色で他種と似ており、識別が難しい。オス・メス同色。留鳥として、全国の海岸・河口・海上で通年見ることができる。日本近海の離島や小島で繁殖もしている。繁殖に参加しない若鳥は、港や海岸に生息する。ミャーオミャーオとネコのような声で鳴く。魚類・水生小動物などを食べる。

他の海鳥を攻撃して、餌を横取りすることがある。成鳥と一緒にいる若鳥の色をよく見てみよう。

セグロカモメ

全長60cm　成鳥の背は灰色。黄色い嘴で、下嘴に赤斑がある。足は桃色。目は黄色。オス・メス同色。冬鳥として全国の海岸・港・河口などに渡来する。鼻にかかったキューという声で鳴く。雑食性で魚や残飯など何でも食べる。

よく似ているオオセグロカモメとの背の色の違いを比べてみよう。

ユリカモメ

全長40cm　成鳥の冬羽は全体的に白く、目の後ろ側に黒斑がある。目は黒く、嘴と足の色は赤い。若鳥は、灰色がかっており、嘴と足の色は淡い。全国的に冬鳥として渡来する。河川を遡り、内陸部にも進出している。ギィーという声で鳴く。ダイビングをして魚を捕えたり、水辺に止まって、水面に浮いている小動物を捕えて食べたりする。他の鳥が捕えた餌を横取りすることもある。

最近は、給餌などの影響で、街中の川でも多数の群が見られるようになった。人間への依存性に的を絞って見てみよう。また、夕方、海上のねぐらに向かう途中、群がって鳥柱をつくるので、一度見てみよう。採餌の仕方にもダイビング・追い込み・待ち伏せなどいろいろあるので、どんな餌の採り方をするのか調べてみよう。

カワウ

全長81cm　全体的に黒く、背が褐色がかっている。顔は黄色く、その外側の頬の部分が白い。目は緑色。本州以南に分布するが局地的である。東京の上野不忍池のコロニーは有名である。全般的には、冬に観察チャンスが多い。グルルーンとうなるような声で鳴く。潜水して魚などを捕えて食べる。群で編隊を組んで飛ぶ。水に潜って魚を捕るために羽は防水性がなく、そのため、岩や岸の上で羽を開いて日光浴をする姿がよく見られる。

長良川の「鵜飼い」のウはカワウではなく、ウミウを使っている。

チョウゲンボウ

全長　オス33cm、メス38cm　オスは、グレーの頭部と先端に黒帯のある尾羽を持つ。背は茶褐色。メスはオスより一回り大きく、全体的に茶褐色と黒の斑模様になっている。全国的に分布し、本州の川沿いや海岸や山地の崖地で繁殖する。近年は、鉄橋や橋桁や建物などの人工物に繁殖する例が増加している。冬は、全国の農耕地や河口や海岸などに生息する。キィキィキィと鳴く。ホバリングしながら、空中に止まり、ネズミやバッタなどを捕えて食べる。また、スズメなども食べる。

人工物に繁殖する個体を探してみよう。

トビ

全長　オス59cm、メス69cm　茶褐色の大きめのタカで、翼下面に一対の白い斑が出る。ここが見分ける第一のポイント。また、尾は広げた時にバチ（三味線）型をしている。全国的に留鳥として生息するが、沖縄では稀。海岸部で多く見られる。ピーヒョロヒョロロロというような声で鳴く。

主として死肉を食べるが、魚を捕えて食べることもある。足で捕えた獲物を飛びながら食べることもある。輪を描いて飛ぶところや、上昇気流に乗ってどんどん上空に舞い上がっていく様子を観察してみよう。「とんび」は、4年生の唱歌として親しまれている。

ゴイサギ

全長58cm　成鳥は、背が緑黒色で、腹部が白い。目は赤い。幼鳥・若鳥は、全体的に茶褐色で、淡色の斑や縦斑が見られる。幼鳥の目は黄色く、若鳥になると赤くなる。幼鳥成鳥とも嘴は黒く足は黄色い。本州以南に周年生息し、河川や池沼などの水辺に生息する。夜行性のため、昼間は休んでいることが多い。クワァックワァッと一声ずつ区切って鳴く。水辺での待ち伏せ漁が主で、魚や両生類などを食べる。

目を見て、幼鳥と若鳥の違いが分かるようにしよう。

ダイサギ

全長89cm　シラサギの中では、最も大きい。全体的に白く、冬羽は、嘴が黄色で、目先は淡黄色。東北南部以南に冬鳥として渡来する。関東以西の一部で繁殖する。湖沼や河川に生息する。グァーとしわがれた声で鳴く。魚類・小型哺乳類・ザリガニ・昆虫などを食べる。

足や嘴や目先の色をよく観察してみよう。

コサギ

全長61cm　全体的に白いサギで、嘴が黒く、目元は黄色。足が黒く、足指が黄色い。東北南部以南に留鳥として分布し、河川や湖沼などの水辺に生息する。グワァー、グェーなどと鳴く。魚類・ザリガニ・昆虫などを食べる。

足でかき回して餌を追い出したり、待ち伏せをして採餌したりするなど、採餌行動がいろいろとあるので調べてみよう。

アオサギ

全長93cm　日本産のサギの仲間では、最も大きい。全体的に灰色のサギで、風切羽は黒色で羽ばたくとツートンカラーが目立つ。嘴と足は黄色い。グワァーとしわがれて濁った声で鳴く。全国の河川や湖沼などの水辺に生息する。四国以北で繁殖する。冬は暖地に移動する。魚類・両生類・ネズミなどの小型哺乳類・昆虫などを食べる。

翼を広げて日光浴をすることがある。

カワセミ

全長17cm　コバルトブルーの背中とオレンジ色のお腹がポイント。飛ぶ宝石と呼ばれ、姿が美しく多くの人から注目される。オスは嘴が黒いが、メスは嘴の下側がオレンジ色を帯びる。全国的に繁殖するが、北海道に分布するものは南下する。ツィーという声で鳴く。

水中にダイビングをして小魚などを捕えて食べる。一時期姿を消したが、最近、街中の池や川でも見ることができるようになってきている。

ハクセキレイ

全長21cm　白と黒の模様のセキレイで、セグロセキレイによく似ている。目の下の部分が白いのがハクセキレイで、黒いのがセグロセキレイ。以前は北日本で繁殖していたが、最近は繁殖域が南下している。冬季は南へ移動する。河川の中流部に主に分布するが、最近は水への依存度が減り、市街地に分布が拡大しつつある。これは、食性の許容が広いためと思われる。チチッチチッとキセイレイより濁った声で鳴く。

主に昆虫類を食べるが、菓子類なども食べるので注意して観察してみよう。河川の上流部や山間部への生息域の拡大は、あまり行われていないので、今後、注意深く見ていく必要がある。

セグロセキレイ

全長21cm　白と黒の模様のセキレイで、ハクセキレイによく似ている。目の下が黒いのがセグロセキレイで、白いのがハクセキレイ。ハクセキレイより水に依存する度合いが高い。川でも底が礫地の所に分布が多く、一般的に砂地を好むハクセキレイより上流に生息する。留鳥としてほぼ全国的に分布する。ジジッという濁った声で鳴く。主に昆虫類を食べている。

日本の固有種で、世界で日本にしか生息していない。そのためわざわざ外国からセグロセキレイを見に来るウォッチャーもいる。

セグロセキレイの他にどんな固有種の鳥がいるのか調べてみよう。

キセキレイ

全長20cm　背の部分がグレーで腹部が黄色いセキレイの仲間。足は黄褐色をしている。長めの尾を上下に振るしぐさが目につく。九州以北の平地から高山までの水辺の環境に広い範囲で繁殖し、本州以南で越冬する。高地や北に繁殖する個体は、冬季、南に移動する。街中の目立つ所で囀ったり、物置などで繁殖したりすることがある。チチッチチッとハクセキレイより細く鋭い声で鳴く。昆虫類を主に食べる。

石垣のくぼみや石灯篭などの人工物に繁殖することも多いので、繁殖期の様子も調べてみよう。

タヒバリ

全長16cm　背はグレーがかった褐色で、腹部は淡い黄褐色で縦斑がある。ビンズイとよく似るが、ビンズイは目の後ろに白斑があり、タヒバリにはない。東北の北部以北に繁殖し、東北以南で越冬する。河原や農耕地などに生息する。ピィーッピィーッと細い声で区切って鳴く。植物の種子や昆虫類を食べる。

春になると胸の色が淡く赤褐色がかって夏羽に変わってくるので注意してみてみよう。